震度と長周期地震動階級

気象庁が発表する震度

ある震度が観測されたとき、その周辺で発生する現象や被害等の目安は次のとおりです。

震度とゆれの状況

0

[震度0]
人は揺れを感じない。

1

[震度1]
屋内で静かにしている人の中には、揺れをわずかに感じる人がいる。

2

[震度2]
屋内で静かにしている人の大半が、揺れを感じる。

3

[震度3]
屋内にいる人のほとんどが、揺れを感じる。

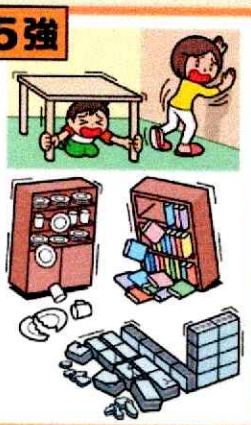
4

[震度4]
- ほとんどの人が驚く。
- 電灯などのつり下げ物は大きく揺れる。
- 座りの悪い置物が、倒れることがある。

5弱

[震度5弱]
- 大半の人が、恐怖を覚え、物につかまりたいと感じる。
- 棚にある食器類や本が落ちることがある。
- 固定していない家具が移動することがあり、不安定なものは倒れることがある。

5強



[震度5強]
- 物につかまらないと歩くことが難しい。
- 棚にある食器類や本で落ちるものが多くなる。
- 固定していない家具が倒れることがある。
- 補強されていないブロック塀が崩れることがある。

6弱

[震度6弱]
- 立っていることが困難になる。
- 固定していない家具の大半が移動し、倒れるものもある。ドアが開かなくなることがある。
- 壁のタイルや窓ガラスが破損、落下することがある。
- 耐震性の低い木造建物は、瓦が落下したり、建物が傾いたりすることがある。倒れるものもある。

6強

[震度6強]
- はわないと動くことができない。飛ばされることもある。
- 固定していない家具のほとんどが移動し、倒れるものが多くなる。
- 耐震性の低い木造建物は、傾くものや、倒れるものが多くなる。
- 大きな地割れが生じたり、大規模な地すべりや山体の崩壊が発生することがある。

7

[震度7]
- 耐震性の低い木造建物は、傾くものや、倒れるものがさらに多くなる。
- 耐震性の高い木造建物でも、まれに傾くことがある。
- 耐震性の低い鉄筋コンクリート造の建物では、倒れるものが多くなる。

（気象庁ホームページより抜粋）

詳しくは気象庁ホームページを参照してください。
震度について　https://www.jma.go.jp/jma/kishou/know/shindo/index.html

家具類の転倒・移動・落下 対策編

1 減災対策こそが一番

災害の物理的限界⇒大規模地震や大雨など、物理的に防ぐことが難しい災害が多いため、被害を最小限に抑える（減災）ことが現実的である。という考え方があります。

2 首都直下地震の被害想定によると、想定負傷者のうち 34%が家具などの落下によってけがをする。という試算もでています。家具を固定することが、自分だけでなく家族の身を守ることにつながります。

3 減災のコツ

L 字金具などで壁の「下地」にネジで直接固定する方法が最も効果的ですが、それが難しい場合は、突っ張り棒（ポール式）とストッパー式器具（または粘着マット式）を組み合わせて使用する。